

## 令和5年度第4回一関市協働推進会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第4回一関市協働推進会議
- 2 開催日時 令和5年11月29日(水) 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 川崎農村環境改善センター 多目的ホール
- 4 出席者

(1) 委員 小野寺健委員(会長)、千葉真美子委員(副会長)、  
太田真希子委員、小笠原あい委員、小原雪男委員、  
菅原幸子委員、千葉昭博委員、千葉理恵委員、村田宰委員

※欠席委員 小野寺浩樹委員、小山賢一委員、金野陸夫委員、  
佐々木承子委員、佐山克子委員、星義弘委員、三浦幹夫委員

(2) 事務局 小野寺愛人まちづくり推進部長、後藤治まちづくり推進課長、  
山崎政義まちづくり推進課長補佐兼まちづくり企画係長、  
小岩元希花泉支所地域振興課地域協働係主事、  
佐藤美紀大東支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、  
鎌田健治千厩支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、  
小崎ひろえ東山支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、  
佐藤俊之室根支所地域振興課地域協働係長、  
足利学川崎支所地域振興課地域協働係長

### 5 議 題

(1) 一関市協働推進計画(第3次)(案)について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 小野寺健会長挨拶

本日は寒いなか、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の会議でございますが、一関市協働推進計画第3次の案につきまして、皆さんからご意見を頂戴するという会議でございますので、活発なご発言をよろしく願いいたします。

### 9 審議事項

(1) 一関市協働基本計画(第3次)(案)について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 目次の文言に誤りがあるのではないか。

事務局 ご指摘のとおりであり、修正する。

委員 3ページの背景と趣旨であるが、現計画では計画策定の目的と位置付けとある。2次の計画が終了するので、3次ではこういうことを取り組みますというのはすごくいいと思うが、3次での目的も必要であると思う。背景があつて目的があり、その目的に対してこういう計画を立ててやっていくという、その目的を残した方がいいのではないか。

事務局 内容は、検討させていただく。

委員 同じ3ページの2の計画の位置付けだが、上位計画の一関市総合計画の基本計画で定めると記載されているので、上位計画からどのような流れできているのか確認した。現在は、一関市総合計画の後期基本計画に入っているのですが、初めての方は、この一関市総合計画基本計画が見つからないのではないかと思うので後期を入れていただきたい。

また、可能であれば、一関市総合計画からの流れを図で示してもらえるとわかりやすいと思う。

事務局 図については、検討させていただく。

委員 3ページの項目のつけ方について、例えば、1背景と趣旨の前に計画策定を入れて、計画策定の背景と趣旨としてはどうか。

また、4ページの計画の期間について、令和10年度までの5年間とし総合計画との整合性を図るとあるが、整合を図るではないか。

それから、6ページの取りまとめ中について、地域協働体にアンケートを行い、回答がまだ返ってきていないのか、返ってきたが取りまとめ中のどちらか。

事務局 今、お話があった項目や文章については、ご意見をいただいたように修正をする方向で考えたい。

各地域協働体に行っているアンケートについては、一部の協働体からまだ回答をいただけていないので、まとめられていない。課題についてはアンケート内容の回答を基に計画に記載している。

地域づくり計画の達成状況や行政施策に対する評価については、すべての地域協働体からの提出後にまとめたいと思っており、取りまとめ中としたところであり、取りまとめが終わり次第お示ししたい。

委員 5ページの第1次計画の取組成果と課題で、主な取組の経過について、文章で第2次の計画の成果と課題が書かれているが、次の計画には、第1次の主な経過のような年表は入れずに文章だけの予定か。

事務局 主な経過については、案の時点では削除した状況でお示ししたが、年表の方がわかりやすいというご意見をいただいたので検討する。

委員 年表をつけることで、第1次ではこういうふうに計画し、第2次では取組を始めほぼ完成したという流れが見えて、第3次での取組がわかりやすく伝わるのではないかと思います。

先ほどの図で総合計画から順番に下ろしてきて、どのように計画が組み立てられているかを図で示した方がわかりやすいのと同じで、やはり経過を年表で示した方が、文章で書くよりわかりやすいのではないかと思います。

事務局 見てわかるような年表を作成したいと思う。

委員 20ページの事業11「地域づくり計画」の市政への反映方法の検討について、令和6年度は検討であり令和7年度は実施とあるが、検討を始めたら実施ではないかと思う。検討と実施の違いについて伺いたい。

事務局 現計画の事業3でも「地域づくり計画」の市政への反映方法の検討を掲載している。そちらには平成31年度と平成32年度で、市政への反映方法を検討することとしていたがまだ決まっていない。

来年度、市でどのように計画や予算に反映させていくかを改めて検討し、協働で取り組める仕組みを作っていきたいと考えている。

事務局 地域協働体が作った地域づくり計画をどのように市政に反映するかについては、検討段階である。それが課題であり、皆様から求められていることと思う。市の計画というのは、一関市総合計画になるので、その中にどのようなものを取り込んでいくかをきちんと考えていかななくてはならない。

新しい一関市総合計画が令和8年度からなので、令和6年度と令和7年度に検討し、令和8年から実施という考え方になるかもしれないが、持ち帰って整理させていただきたい。

委員 今の文言の話であるが、実施と書かれているところが多くある。当然、実施をしたら結果が出て、結果が出たら評価をするべきと思うので評価を入れた方がよい。

19ページの事業7の内容に、声を掛け合うという文言について事務局から確認を求められたが、全体的に見るとここだけが具体的という感じを受ける。もう少し濁してもいいのではないかと思います。

また、16ページの体系図だが、今回新しくより具体的に担当が分けられているところはすごくいいと思うが、全体で見るとほとんどが二重丸で、誰か1人が旗振り役と考ええると、二重丸はどこか1つと思う。もう少し重みを持たせてもいいと思う。

23 ページの成果指標を追加したこともすごくいいと思うが、現在の計画での狙いはなかったと思う。当然、上位の総合計画に目標があると思うので、検討することではないのではないか。何か課題があるからこの計画を作らなければいけなかったはずである。

事務局 総合計画の中で協働のまちづくりの指標を設定しており、その指標は、市民1人当たりの市民センターの利用回数となっている。そのほかに、第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの重要業績評価指標は地域活動の事業数としている。

現在、市民1人当たりの市民センターの利用回数が総合計画の指標になっているが、市民センターを活用することが、協働が進んでいることの指標なのかどうか。何かもう少し違う形で成果を図れるものがあるのではないかと思い、再度検討しているところである。

委員 指標が正しいかどうかはそのとおりであるが、もう足かけ10年で15年目に向かってスタートというところで、変化があるのは当然と思う。ぜひ数字で指標を設定した方がよい。

事務局 計画を作る4月ぐらいから課題になっていて、総合計画の指標は指標としては達成しなくてはいけない目標であり、ただ、それが令和7年度に見直され令和8年度から次の計画になる。その前にこの計画を作るので、何か目に見えるものが欲しいと考えていたので、次回お示しし相談させていただきたい。貴重なご意見であるので、もう少しお待ちいただきたい。

委員 この会議も前年と今期では、年間の回数が2倍か3倍になっている。それだけでもすごくいい効果と思う。

事務局 会議の回数については、市の職員が地域協働体の方に出向いて会議を行っているので、それを何回やっているかというのも指標になるのではないか。

また、若者が各地域のイベントに参画する割合を目標にするとか、厳しい目標になるかもしれないが、何の数字にするかということも悩んでいるところだが、そういったものを入れられればと思っている。

事務局 事業8で事業者との連携として新たに事業を設けたかが、今までの計画の中にも、協働によるまちづくりへの企業の参画という項目があったが、思うように事業が進められてこなかった。具体的にはどのように進めていくかは今後考えていかななくてはならないが、市民と企業が連携して地域の課題を解決につなげていくことについて、企業側の印象を伺いたい。

委員 1つの意見として聞いていただきたいが、特に工業においては、本社が一関市にあるかどうかで大きく考え方が変わると思う。いわゆる誘致企業の支店のようなものがここにあった場合、何かまちのためにやろうと考えても決定権がない。働く人は当然一関市の方が多く、その従業員の方が取り組もうと思っても、会社がOKを出さないと会社としては参加できない。もちろん全ての誘致企業がそうではないがそこは壁があると感じている。

私の会社はここに本社があるので、例えば、夏祭りへの花火の提供や、くるくる踊りなどに参加したいという気持ちは当然ある。このまちに対する思い入れというのは圧倒的に違うのではないかと思う。

例えば、若者の定着率についても、最近どんどん進学志向も強くなっていく中では、就職も県外にという側面が若干強く、県内就職でも北上方面に行ってしまうケースが若干多い。そういったところでは市の就職支援である、ハローワークの就職支援というのもたくさんあり、若手の採用だけではなく就職氷河期世代の雇用支援なども市でやっているのはすごくありがたい。

しかし、今年1年間を集計してみたが、その制度を年間通して何日間使ったかという、2か月半ぐらいの使用だった。なぜ、このように間延びしてしまったかという、各団体が独立してやっている問題がある。ハローワークはハローワーク、市役所は市役所、学校は学校で実施している。会社としては受け入れるなら1人だろうが5人だろうが労力は変わらないので、できればもう少し横の繋がりを強くしていただけるとありがたい。働く人はどこに行こうが就職したいわけなので、窓口が少し乱立していると感じる。雇用の面においては、そういう課題が少しあるかと思うし、考えながらまちづくりとか参画という意味では、地元かどうかというのは、同じような目線でプッシュをしていくと、無駄な時間ばかり使う人が出てくると思う。

事務局 16ページの体系図について、取組主体の地域協働体の欄に二重丸をたくさんつけたがその点について、ご意見をいただきたい。

委員 地域協働体は、ほとんどの分野で一緒になってやっていかななくてはいけないことかもしれないが、全部に二重丸が付いているとどこが主体なのかわからないので、本当に主体になるところを二重丸にした方がよい。

また、いちのせき市民活動センターの中間支援組織による支援の部分では、地域協働体も行政もおんぶにだっこの状況でかなり大変なのかと思う。この項目を見ると、二重丸はないので主体にはならなさそうに見えるが、実際は主体

になっていると感じる。いちのせき市民活動センターによる支援の項目は、地域協働体や市は主体ではないので、丸になるということではいいか。

事務局 いちのせき市民活動センターに主体的に動いていただいて、市や地域協働体は協力するイメージでいる。丸や二重丸については、ご意見をいただいたことから再度どこが本来の主体なのか検討する。

委員 事業 10 の円卓会議の促進について、内容を読めば主体は地域協働体になる気がするが、それに対して市は参加なので主ではない。みんなでやろうという気持ちはすごくよく伝わる。

委員 市のところを丸にすると、地域協働体に全部投げてしまったと思われのではないかということで二重丸にしているのではないか。一緒にやりますよということで市も全部二重丸が付いているのではないかと察する。

委員 この取組主体についてだが、2つに分けるのではなく主体と参加の間にサポートのようなものを設けて、市や地域協働体をそれにするのはいかがか。そうすると、参加と主体をきっぱり2つに分けなくても、どちらが主体でも、市がサポートしますよというのも考えられると思う。

委員 主という言葉を使うことで、主従みたいな感じになる。この先導的に取り組むという言葉はすごくいいと思う。

委員 事業 10 の円卓会議の促進について、円卓会議とは何か書かれていない。

事務局 地域協働体は、円卓会議のような組織ということで説明してきており、皆さんで話し合いをしようということだが、いかがか。

委員 必要ないと感じる。本来、会議というのはそういう形であると捉えている。確かにリードするところは必要だが、会議はある程度みんな同じのように話ができるので、改めて取り上げる必要があるのかと疑問に思う。様々なところから意見を吸い上げたいという気持ちだろうと思うが、各組織がきちんと会議ができる形をとることが大事と思う。改めて円卓会議と言われると、何か今までとは違う別の会議をやるのかという気がしたので、事業とする必要がないと思う。

委員 地域のことを考えて何かやろうとするときに、どこかの機関や組織全体が言うことについて、全然反対も何もなく従うところはない。様々な意見を戦わせて、例えば、今の時期に酒を飲むのはまずいという意見が出て、どうするか決まっていくのが円卓会議と考えている。円卓会議の捉え方がおかしいのかもしれないが、親分がいて盲目的に従っていくようにしか考えていないが、いいのか。諸侯が集まって、そこをどう戦おうみたいなことでやるときに、開いた会

議のことを言うのか。誰が親分ということではなく、ここに会長席があるということはない。

委員 円卓会議というと選ばれた人が囲む会であり、各国の首脳が集まるG7などがそういうイメージとしてある。だから広くというよりも、ある程度猛者が集まるイメージである。

委員 そういうイメージの円卓会議であれば、それを促進するとなると広く聞いてというのは少し違う捉え方になる。ここで言う円卓会議とは、例えば、その地域協働体だけで話をするのではなくて、そこに行政の職員も入り様々な角度から話を進められるようにしましょう、そこに行政の人が入っても、上からの目線ではなくて同等の目線でお話できるような会議をしましょう、ということで促進するとしたのではないか。

事務局 地域協働体へ説明する際には、常に地域協働体は円卓会議のような組織であると説明をしてきたが、今回、住民懇談会や様々な地域でのご意見をいただくと、実際そういった会議ができていない地域も結構あった。

そうすると、その取組は誰がどうやって決めているのだろうかとなるので、みんなで話し合いをした上で決めていく、そういうふうな仕組みを作っていきたい。本来の形で進めていきたいということで、特出ししたものである。

委員 まちづくり協議会は、基本は話し合いが主で事業を主体としない。話し合いの場であるが円卓会議ではない。話し合いはやっているが、円卓会議は難しいという印象で、新たに何かをやらなくてはいけないのかというふうを感じる。

協働担当の職員は来てくれるが、他の課の人が来るわけではないので、そういう職員との場作りなのか、円卓会議がここに載ると何かまた新たなことを始めるのかという印象である。地域課題を共有するということは19ページの事業にもあるので、市役所の職員がその地域の課題を共有する場のような感じで入っているのかとってしまう。事業としてはない方がよいと思う。ほかの事業に入れる方がよいと思う。

委員 円卓会議という言葉は別の言葉にしてはどうか。

委員 事業として、ここにあげるのがどうかということである。そもそも会議は円卓会議でという会議の持ち方を最初にあげればよいと思う。それができてないところが多いから、進めたいということで記載してはどうか。例えば、事業とすることでそれに対しての指標があり、結果として、そういう会議が何回出来ましたなど、そういう数字に表しやすいという事でここに事業として入ってい

るのかもしれないが、そもそも会議はみんなでやる会議と思う。事業として書くともた別な会議を開かなくてはいけないと思われるのではないか。

委員 委員がおっしゃったように、実施して評価をしていかなければならいのは同感だが、そうしたときに、この円卓会議の評価は何になるのか、どう評価をするのかが問題と思う。上手に会議が出来ましたという評価になるのか。

委員 円卓会議とは何かとなり、それが上手か下手かの定義がここの推進会議の中でさえバラバラなので、もう少し検討していただきたい。

事務局 検討する。

会長 今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

事務局 今後のスケジュールは、本日お示しした計画案に取りまとめ中や、検討中という項目があるので、その内容と本日いただいた意見を反映させたものを12月中旬に送付するのでご意見をいただきたい。

また、来年1月下旬から2月にかけて、パブリックコメントを実施する予定である。そこでいただいたご意見などを計画に反映させ、そして第5回の協働推進会議でお示しし、最終的にご意見をいただきたい。

10 担当課 まちづくり推進部まちづくり推進課